文化の祭典 多様性表現

松陽スピリット

発行所
鹿児島県立松陽高等学校
新聞同好会
鹿児島市福山町573番地

第41回文化祭

芸術文化の学び躍動

多彩な舞台・展示・バザーに参観者多数

6月7日（金）・8日（土）の2日間、第41回文化祭が開催された。今年のテーマは「彩り～多様性のその先へ～」だ。「性別・人種・年齢・障がいの有無に関わらず、人々の持つ多種多様な個性」を認め合うことを意識した今年度のテーマ。2日間を通して、生徒一人一人の多様性が華開いたものとなった。1日目は、一昨年から続く川商ホールの本格的な舞台でのステージ部門。2日目は学校でバザー・展示が行われた。いずれも、多くの保護者や地域住民が参観し、大きなにぎわいを見せた。〔橋口ひより〕

迫力の舞台に全校生徒が心一つに

文化祭1日目のステージ部門は川商ホール（鹿児島市与次郎）の第1ホールで行われた。ホールは生徒や保護者等で埋め尽くされた。

ステージは書道部によるオープニングパフォーマンス「墨躍筆走」（ぼくやくひっそう）からスタート。音楽に合わせて3年生10名が力強いパフォーマンスを披露した。開会行事を経て、3年美術科恒例の映像作品「ティーチャーズ」が放映された。「ティーチャーズカード」を手に入れ戦闘力を競う先生たちの迫真の演技に会場は笑いに包まれた。古閑眞依さん（3－8）は、「セリフの間をどのくらいとると面白くなるか、映画やドラマを参考に考えた」と制作の苦労を振り返った。

吹奏楽部の「テキーラ」の演奏に応え、盛り上がりが最高潮の会場（川商ホール）

２日目に販売され30分で完売となったティーチャーズカードを自慢し合う生徒

書道部のスピード感と技巧が光るパフォーマンスに会場は引き込まれた。

3年英語コースによる「タイムトラベルするなら過去より未来？」では、映像と舞台を利用した英語でのディベートが行われ、高い英語力に注目が集まった。午前の部は、2・3年音楽科のレベルの高い合唱・合奏の感動に包まれながら締めくくられた。

午後の部は演劇部による劇「眼鏡のかれ！」からスタート。独特な世界観と先が読めない展開に目が釘付けに。音楽部による合唱では、8月に岐阜県で開催される全国総文祭で合唱する「お早うの朝」（作詞・谷川俊太郎）を含む3曲が披露された。ダンス同好会の個性あふれる大胆なパフォーマンスも圧巻だった。1日目のフィナーレを飾ったのは、吹奏楽部による「松吹２０２４コレクション」。恒例の「フィンガー5コレクション」「テキーラ」等を演奏、会場は最高潮の盛り上がりを見せた。〔橋口ひより〕

校門装飾（美術科）

充実の展示・バザーに校内は大にぎわい

文化祭2日目は、松陽高校で展示・バザーが行われた。雨模様にも関わらず多数の一般客が来校した。美術科の多種多様な作品の展示や販売は特に人気を集めた。クラス展示のフォトスポットや迷路は、一般客が順番待ちの列を作り人気を集めた。2年美術科の生徒が、虎と龍の絵を大きな紙に観客の前で描く「ライブペイント」では、生徒の熱演に歓声があがっていた。

バザーは、2・3年生の食品販売等19店が出店。教室を昭和レトロや映画館をイメージして装飾するなど店の雰囲気も工夫されていて参観者を楽しませた。〔渡邊碧・大保愛花〕

3年美術科の展示・販売「野生の思考」は、まさに多様性を演出していて注目を集めた。（多目的ホール）

生徒会役員が地元茶のPR販売

本校周辺が生産地の「松元茶」の魅力を知ってもらおうと、生徒会役員が発案して「松元とつながりたい」と題し、地元茶の振る舞いと、販売を行った。「色がとても綺麗」「甘くて美味しい」など賞賛の声が上がり、用意した茶葉１００袋も完売した。〔梶木詩桜〕

生徒は事前に市茶業振興会の方から冷茶の入れ方を習い準備。水201Lに茶葉15グラムを入れ20分待つと美味しい冷茶となる。

「松陽スピリット」の創刊に寄せて

校長
田嶋 吾富

今年度、鹿児島県ＮＩＥ（Newspaper in Education・教育に新聞を）推進協議会のアドバイザーも務める地歴公民科の池之上先生の下に集った生徒有志により松陽高校新聞同好会が発足しました。早速、新入生歓迎号を発行し、図や写真、イラストと分かりやすい丁寧な文章で本校の魅力をハード、ソフトの両面から紹介してくれました。そして、この度、「松陽スピリット」創刊号の発行により新聞同好会の新たなる知の旅が始まりました。心よりエールを送りたいと思います。

「松陽スピリット」が提供する記事は、記者となる同好会の皆さんが足を運んで取材し、確かな根拠に基づいたものでなければなりません。その前提があるからこそ、常に記事の裏側に、込められた同好会の皆さんのたくさんの思いも大切に読みたいと思います。

また、生徒の皆さんも単に読者となるのではなく、部活動や学校行事、ボランティア活動、地域との連携などの本校の魅力を家庭や地域へ発信する大切なメディアとして「松陽スピリット」を大いに活用して欲しいと思います。

「松陽スピリット」が、本校の校訓である「向学・高雅・貢献」に込められた、知識の追求と想像力、共感の精神を大切にし、私たちに情報をとおして、コミュニケーションの場を提供する重要な存在となることを期待しています。

そして、松陽高校のこれまでの41年の伝統に新たな知的イノベーションをもたらしながら共に歴史を刻んでいってくれることを楽しみにしています。〔寄稿〕

祝 創刊号
1面…「松陽スピリット」の創刊に寄せて（校長）
第41回文化祭特集
松元茶のPR企画
2面…卒業生プロ漫画家に生徒総会
3面…身近に生息「特定外来生物」
4面…春夏の松陽生の活躍

アートな日々

VOL. 2

寸松庵色紙（すんしょうあんしきし）

制作者 新島愛梨（3-1）

『寸松庵色紙』とは『古今和歌集』の四季の歌を臨書したものであり、継色紙（つぎしきし）、升色紙（ますしきし）と合わせて三色紙と言われる名作。

制作者により墨の濃淡と潤渇に工夫がされている。本館１階購買部近くに展示中。

〔永留成望・大園柾樹・竹原凌聖〕

松並木

7月7日に鹿児島県知事選挙が行われた。3年生の中には、投票に行った人もいるだろう。

▼２０１６年の公職選挙法の改正により、選挙権が与えられる年齢が20歳から18歳に引き下げられた。しかし、若者の投票率の低さが問題となっている。２０２２年に行われた参議院議員選挙では、10歳代の投票率が35・42％で全体の52・02％を下回った。その後の、多くの選挙でも若者の投票率は低い水準にとどまっている。若者の投票率が低い現状は、日本の民主主義にとって大きな問題だ。民主主義が数の論理である以上、投票率の高い世代を中心とした政策が優先される傾向にある。

「シルバー民主主義」と表現されるこの傾向は、私たち若者世代の、生きづらさにつながりかねない。▼今回の県知事選挙では、県選挙管理委員会のユニークな啓発動画が注目された。「誰でも良くない県知事選」がキャッチフレーズで、ライブ配信中の若いバーチャル知事が登場するなど、私たち若者への訴えであることを強く感じた。私たち自身の生活や生き方にかかわる投票行動。「誰でも良くない」を自覚して、来たる選挙は必ず投票に臨みたい。〔浦乃愛〕

※この新聞の題字「松陽スピリット」は，若松璃央さん(3-1)の書です。